

昭和57年1月1日

J.P.C

謹賀新年



No.14

新年のごあいさつ

株式会社コマキ楽器

社長 小牧 正明



'82あけましておめでとうございます。

昭和52年1月にJPC創刊号を発刊してから本年度で丁度5周年を迎える事になりました。

その間、ジャパン・パーカッション・センターの開店から、サマーキャンプ、クリニック、JPCコンサート、パーカッションフェア等を実施し、やっとJPCも皆様に認めてもらえる様な会に成長する事ができてまいりました。

振り返って51~52年頃の事を思い出しますと「パーカッションで何ですか?」という質問をあちらこちらで聞きましたが、今ではジャズ、ロックからブラスの世界まで完全にパーカッションという言葉が定着してしまい、当時の事が嘘のように思われる時がございます。当初5~600人の方が会員になればと思ってスタートしたのですが、今では全国から3,000人を越える方が入会され、さらに連日事務局には入会申込書が山積されるという嬉しい悲鳴をあげております。ここまでJPCを御育て下さった会員の皆様と顧問の先生方に心からの御礼を申し上げますと共に、今後ともJPC会員の方々が真に入会して良かったと思って頂ける様な内容のある企画をどしどし実行に移し、皆様の御期待に応えたいと存じております。是非共本年も御支援、御べん達を賜わります様御願い申し上げます。そして 昭和57年が皆様にとってすばらしい一年になります様、御祈り致します。

● JPC STAFF 一口メモ ●



(写真左より、弘明・飛田・佐藤・牟田・修・貞岡)

- 小牧弘明：年々若くなっていく特異体質の持主。ただやっぱり最近頭にチラホラ白いものが……と気にしているJPCの親分さん。
- 小牧 修：誕生日、クリスマス等の時はかならず3人の娘さんにプレゼントを買っていくマイホームパパ。でも仕事となると、オゾ〜。
- 飛田恵三：“山椒は小つぶでもピリリとからい。”のごとく、あの小さな体のどこにあのファイトかという様なJPCのハッスルボーイ!
- 貞岡幸男：“アミーゴ・テイオカ。”のブランドをもつこのお方、ラテンに関しては右に出るものなし、今年も“禁酒。”の目標をかかげているが……。
- 牟田由喜子：JPCの紅一点、コーヒー代を集金にくるコワ〜イ方、でも最近とみにきれいになったとか（自己評価）さては……?
- 佐藤親一：JPCのナウ〜いお兄いさん、ウォークマン片手に“ギンギラギンにさりげなく”かけずり回っているJPCの事務局長さん!

今年もどうぞよろしく願います。

(佐藤)

打楽器アンサンブル

へのいざない

その4

塚田 靖

さて、今回は、ウッドブロックや、木魚を選ぶ時に注意しなくてはいけない点について少し書きましょう。

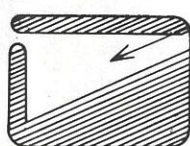
Ⅶ ウッドブロックの選択上の注意点

第一に注意することは、木目をしっかり見ることです。これは、最も大切なことの一つで、目が荒いものは、非常にわれやすいです。(特に円筒形のもの)。また円筒形のはくりぬいてある部分が、片よっていないか、つまり、回りの木部が、全部同じ厚さになっているかをたしかめてください。また、あまり肉のうすいものは、われやすいので注意してください。また、鼓形の場合は、左右の音高差が4～5度ぐらいいった方がよいでしょう。

箱形の場合は、最近多く使われるようになっていますが、一ヶの木をくりぬいて作ったものと、はり合せて作ったものがあります。最近の合板技術は大変よくなっていますので、合板でもあまり問題はないと思いますが、接着面がはがれてしまったのでは、たいへんです。この点が少々心配です。また、上部の板の部分があまりうすいものは、われやすいので注意してください。最近では、図Ⅰのようになったものも多くあり、音量、ひびきともよくなっています。

鼓形、箱形ともに、ケヤキ、カエデなどがよいでしょう。

図Ⅰ

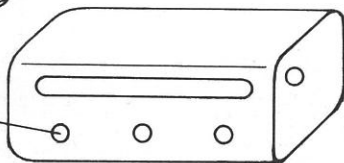


断面図

この部分をくりぬいてあり、ひびきをよく出るようにしてある

外見図

音がぬけるように丸い穴があけてある



Ⅷ 木魚

これは、一ヶの木をくりぬいたものと、数ヶの木部をはり合せたものとあります。音としては、1ヶの木をくりぬいたものの方がよいと思います。あるメーカーのものなどははり合せたものですが、木魚特有のひびきにならないようです(ウッドブロックに近い音になってしまう)、接着面がはがれ、修理が出来なくて、こまったことがありました。

やはり、木目の細かいものを選ぶべきでしょう。材質は、ケヤキがよいと思いますが、最近では外国産のもので、ブナ材を使ったものも多いようです。

さて、次は、鍵盤楽器のことに少し話してみましよう。

代表的なものは、マリンバと、シロホン、ピブラホーン、グロッケンシュピール、またチャイムベル(チューブラベル)、という所です。

グロッケンシュピールとチャイムベルは、一見してちがいははっきりしていますが、マリンバとシロホンでは、どのようにちがうのかということが、はっきりわかっていない人も多いのではないかと思いますので、このちがいの説明を簡単にしましょう。

一般的に、マリンバの方が大きいということはだれでもわかりますが、内容のちがいは、楽譜を見ていただければわかるように、記譜音と実音の関係が異なります。



次に倍音の処理の仕方がちがいます。あまり専門的なことは取り上げませんが、マリンバの方がオクターブ関係の音が多く出るようにしてあり、シロホンの方が五度関係と、その他の倍音がより多く響くように調律されています。したがって、シロホンの方が直線的に響き、マリンバの方が丸味のある女性的(?)な響きになっています。したがって、シロホンは、合奏の中でも、なかなか他の楽器と融和しませんが、マリンバは他の楽器と合せて美しいハーモニーを作り出すことが出来ます。また、マリンバは中～低音域では大変効果的に使え、シロホンは高～中音域で、早い動きが効果的に使えます。もちろん、使うマレットによりいろいろな音の変化が作れることはいうまでもありません。

Ⅸ マレットについて

マレットは、大きく分けると次のように分けられると思います。

- ①プラスチック系
- ②ゴム系
- ③糸または毛糸をまいたもの
- ④特殊なもの

①のプラスチック系のものは、最もかたい音を作るために使うもので、シロホンやグロッケンシュピールに使います。非常に「キンキン」した音になります。使用上注意することは、乱用しすぎると鍵盤をいためますから注意してください。

②ゴム系のものは種類も多く、プラスチックに近いものから「フワフワ」したやわらかいものまであります。主にシロホンなどで、やわらかめな音を作る時に使います。

③のものは最も種類も多く、シロホン、マリンバ、ピブラホーンなどはば広く使われていますし、音の表現も豊かに作れます。

④はたとえば、バックスキンをまいたもの、コルクを使ったもの、フェルトだけのもの、等ありますがあまり一般的には使いません。

この次は、ピブラホーンやグロッケンシュピール、チャイムベルについて書きましょう。ともかく鍵盤楽器は、マレットの使い方でもいろいろと変化のある音が作れますので、充分研究しながら使うことが大切です。

岡田知之打楽器合奏団



TOKYO MRIMBA TRIO



パーカッション・グループ72



'81 PERCUSSION

日本パーカッション界にとって初めての大ページメント'81 PERCUSSION・FESTIVAL が、去る11月27日、折りからの雨模様にもかかわらず、第一線パーカッショニスト40名出演のコンサートとあって会場は立見の人もでる程の熱気の中で開催されました。プログラムのトップは、「岡田知之打楽器合奏団」7名による「回帰」。アフリカのリズムを基にしたアンサンブルで、クロスオーバーフュージョンの乗りやすいポピュラーナンバーでした。次は「TOKYO MARIMBA TRIO」結成してから間もないとはいえ、マリimba界ではトップソリストとして御活躍の皆さんで、クラシックからポピュラーまでマリimbaの魅力を充分聞かせてくれました。パーカッションアンサンブルの中でもいつも創造性と話題性のある曲で私達を楽しませてくれる「パーカッション・グループ72」の登場です。今回の曲は「P・G72」の公演のための委嘱作曲「ケチャ」。編成の楽しさもさることから、民族的な曲でユニークなアンサンブルを楽しませてくれました。さあ次は、2名の奏者が2台づつ、6名の奏者が1台づつ、計10台のティンパニがステージの上に……。10台のティンパニによるコンポジション、作曲の小長谷宗一氏の指揮、在京の交響楽団ティンパニ奏者8名が織り成すコンビネーション・アンサンブル。「壮観」という他は何もないという感じてした。次の曲は同じ8名による「手拍子のための音楽」。一転して手拍子を中心に膝を叩き、足を踏みならすという人間ドラムセット。楽器をまったく使わなくてもこれだけ素晴らしいアンサンブル



恒例. 年に一度の大奉仕!

JPC・コマキ楽器両店

★日頃の御愛顧にお応えして

決算大バーゲン、お買い得品を

多数取り揃え、皆様の御来店をお待ちしております。

★決算大

びっくりする安さ

FESTIVAL

主催／打楽会
 後援／ジャパンパーカッションセンター
 日本楽器・銀座店

もできるのかと驚きました。さあ、いよいよパーカッション・フェスティバルの名にふさわしく、指揮：有賀誠門先生他、一流パーカッション、プレイヤー22名による「ラプソディ」の演奏、豪華絢爛なステージに観客一同ただア然！ 皆さんタイコを叩いて本当に楽しんでいるという感じでした。そしてアンコールの拍手。もう一度、ラプソディの演奏で観客も全員総立ちで一緒に手拍子をとりながら、この素晴らしい「お祭り」を満喫していました。

★'81 PERCUSSION FESTIVAL CAST

- 岡田知之合奏団
- 岡田知之・児玉慶三・細谷一郎・橋政愛・渡辺新一郎・大野智雄・白石啓次・近藤郁夫・新沢義美
- 東京マリンバ・トリオ
- 吉川雅夫・ト部茂子・野口道子・Pero 百瀬和紀
- パーカッショングループ72
- 永曾重光・松倉利之・福田隆・畑中暢行・前田茂・目黒一則

荒瀬順子・有賀誠門・今村三明・岩沢康裕・岡田真理子・木村和彦・小長谷宗一・小林美隆・斉藤 鍵・定成庸二・佐藤 迪・佐藤英彦・白石元一郎・瀬戸川正・瀬端 猛・高橋美智子・塚田靖・針生 淳・山口浩一・山口恭範



有賀誠門先生指揮によるラプソディ



パーカッションセール

楽しいイベントも企画中

'82 1.15 成人の日 (FRI) ~ 1.31 (SUN)

在庫

掃



Physical Drummer

by Kotaro Miwa

三輪厚太郎

——生年月日は？

S32・10・16生まれです。

——いつ頃からドラムを始めたのですか。

中学の時ブラスバンドでスネアをやっていました。その頃からドラムセットをやったのですが、一番近い道としてブラスしかありませんでした。高校に入って初めてパールの「バレンシア」をバイトして買いました。Cymbal はすぐだめになってしまいナベのふたで、代用したりしました。その頃からセットをやるようになった訳ですが、一番最初のF・Pが大変きついものを使っていたので普通の人よりB・Dの音が大きくなってしまいました。それでいつのまにかハードロック志向みたいな感じで、聞くものもツェッペリン、パープルにかた寄り、今でいうクロスオーバーやフュージョンの様に小技を入れるよりも、迫力でやってしまう様な感じでした。するとテクニック的につまってしまうというのが欠点でした。大学のサークルで先輩とか教則本で、フラム打ちとか、ラフ、パラディドルというルーディメントを初めて知りましたが、いままで振りの大きなハードロック志向だったので、どうしても打つのが遅れてしまい大変苦労しました。それからJAZZ等も聞くようになり、色々勉強する様になりました。

——現在、山中のりまさんのバンドで御活躍中ですが……

大学のバンドのギタリストが偶然彼と知り会って、その時分彼は「詩仙堂」というグループでしたが、昔から「キングクリムゾン」みたいなのがやりなかつたらしく「ヒヤ一緒にやろう」ということになりました。そして彼がレコードを出す時、プロデュースに村上「ポンタ」秀一さんが入り、ドラムの事で大変刺激されたい勉強になりました。

——ドラマーとしてこうなりたい(目標)とかありますか。

僕の一つの信念として、レコーディング・プレイヤーすなわスタジオ・ワークより、ライブ・プレイヤーとして成功したいと思っています。スタジオでは、ドラムがプラスとかストリングスにかなり助けられている部分があるし、ダビングによって何テイクもとれるし、やり直しがいりたりしてそのドラマーの実力以上のものができてしまつて、コピーする事もできない位複雑なドラミングになってしまいます。できないものを無理してやるよりも、今自分のできることを正確に楽しくやった方がいいと思っています。

——感銘したドラマー・影響を受けたドラマーは？……

キース・ムーン(WHO)に憧れてプレミアドラムを買った位ですから、影響されたドラマーと言えるでしょう。それからというもの「ツインバス」(Wバスドラム)の人のレコードばかり聞いていました。しかし彼がWHOのナンバー「フーズネクスト」等でみせる両手、両足からのフラム打ちは普通の4倍位の迫力です。彼のセットはちょっと変っていて、昔プレミアで出していた、全てのT.Tの深さが10のタムの上に現在も使われているメロタムをセットし3段積みにして、ハイハットがなく、ツインバスを踏みっぱなしでTop Cymをレガードで入れるという変則的なものです。ただ迫力だけのドラミングという感じですが、あれだけの力量で長時間演奏するのもテクニックだと思います。細かいフレーズを打たいてはたまに大きく打たければ、「パワーあるな」と誰でも思うけど、最初から大音量でやるという事はものすごくテクニックのいる事だとも思います。そういう音楽が、日本で受けるかどうか解りませんが大音量で長時間維持し、それでフィルインをもっと大きくする様なドラミングをやっていると思います。又、ノーミュートですごい音を出す、ビリーコバハムも影響を受けたドラマーです。彼が日本に来たとき観に行つたのですが、フラム打ちの時とか早いフレーズの時、彼のスティックと腕がブリズムの様に見え、すごく早い割に大変大きな音を出していました。あれはもう本当に神技だと思いました。又、質問コーナーがある人が左手で3拍子、左手4拍子、左足で……、右足で……と解らない無茶苦茶なリズムを言ったところ一つずつ良く聞かないと解らないのですがやっぱりあっていました。終わってから前の方にスッと出てきて、「こういうくだらない質問はするな」と怒っていましたが、

ああいう人は何を言われようと、どこをつかれようと「アラは出てこない感じで、「アーけたが違うな」と思いました。もう一つのエピソードは、クリニックが終わってからポテトチップスの空き袋の上でロールをやるのですが、接点の少し上でピタッとスティックをとめるのです。すると袋がバラバラと鳴るのです。それが練習だという事ですが、どうすればよくなりますかという質問には「こんな所に来ている暇があったら家で練習しろ」という事で、というのはコバハムが、マイルス・ディビスに見出されるまで練習のこけを考えていたらしいのです。そこでまたレベルが違うなと思つた訳ですが、やりがいがあるとも思いました。職業的には別としても、音楽人口が日本の何十倍という中から、こういう人が生まれてくるという事と、音の表現がその人全てを物語るという事が恐い感じに体験しました。

——プレミアドラムを使用した感想は？

前にも言いましたが、WHOのキース・ムーンにあこがれてプレミアを買うことを決心した訳ですが、私の大音量というニーズに応えるドラムとしては、やはりこれしかないという感じでした。ヘッドを3〜4日位で替えなければならぬ位の使用に對し、胴は全然ゆがまないし、リムなども久々に平らな所に置いて動かさないし、あれだけの音量(長時間)にたえられる品質の良さ(丈夫さ)が解ります。

リゾネーターモデルの特徴としては、手で打たいても、スティックで打たいても音が良く抜け、余韻で胴が鳴るというかすばらしいサスティーンが効いて、続けて打たくと音がまわる感じで、どれが今打たいた音が解らなくなる時があります。だから逆にミュートをしないと使えないのだけれど、小さく打たく人がそうするのであって、大音量だったら音がまわっている間、ドライブするというのが譜面と言うと打たいた音がトン、トン、トン、がでやるとドォーンという感じに一色に塗りつぶされてしまう感じで、Cymと一緒に打たくとウワーンと鳴る感じがすげえ、反面少し音がうるさいと言われた事もありますがとにかく、他のドラムの最大音量とプレミアのそれとは格段の差がある様に思います。確かに他のものはハグレの良い音はするのですが、迫力の「ドスッ」というか「ミシッ」というようなめりこむ音は出せません。プレミアでハグレの良い音を出すには、ミュートをしたりして音を押しさえれば簡単に出来るんです。それからハイハットスタンドも大変きい入っています。作場合15°のものなので他のスタンドだと重くて動きがぶくぶくしてしまいます。その点2本のスプリングでスムーズにフィットして動きが大変良いと思います。又2本のスプリングが個々に調節できるので微妙なフィット感が得られます。フットペダルに関しては、昔スタジオのそなえ付けのペダルのピーターを折ったりしましたが、プレミアの#252を使用して、確かにピーターが大きくて重いの早いフレーズはやりにくいのですが、あれだけパワーの出るペダルはないと思います。それを早く踏める様になる事もテクニックだと思います。ただ動きはスムーズなので、コージー・パウエルもペダルはプレミアの#250を使用して「強度とパワーは最高！」と言っていました。一口にプレミアドラムを僕なりに言ってみれば、強弱(音量)の幅が広く、良くのびてまわるので音がすげえ。それと僕の今のセットに(付けたし)するの、3年位かかったのですが、品質、音質とも前のものと差がなく、プレミアは当たりはずれのないドラムだと言えると思います。

——基礎的練習方法(練習でのポイント)を教えてください。

リズムを解って打たない為には、メトロノームに合わせて打たれています。♩=120(MED-TENPO)位にあわせて、リズムパターンの中に「オカズ」を入れて、遅れたとか走ったとかを気にしながらやっています。よく、もたれきみにとか、ちょっとつっこみきみに打ててくれと言われますが、ジャストミートが解っていないと「もたれきみ」も「つっこみも」も解らないと思います。例えば、もたれきみきみにと言われればF・Pを重くしてもつと力を入れもつと踏めない様にし、力を入れたら分だけ体力に力が入る訳ですからもたつてきます。反面ちょっとつっこみきみの場合は、ピーターをもつとヘッ

ドに近づけてスプリングをゆるめると軽い力で打つことができます。すると手の方も自然にそういう風に動いてくれます。この方法は本番の時は無理で練習の時、インテンポの中で感じをつかむ為にもやります。僕の場合、週に2回の練習のうち半日位(6時間位)ジャストミートとそういう練習をしています。そして、そういう事やることによってTimeが解つてきて、早いテンポになると何分位で「もたつて」くるか、のつてくるとどれ位「走ってくる」かが解り、それをどうするかという練習を主にやっています。ただこの練習ばかりやっているといざアンサンブルをやった時、自分のリズムばかり気にして他人のリズムを聞かなくなってしまう、他人に自分のリズムをおしつけかねなくなります。これは音楽的にあまり良い事ではないと思うのです。当然走っても不思議じゃない時は走らなければいけないし、それで静かになった時はちょっとたれぎみにならないと、せせこましい音楽になってしまうと思います。そういう強弱とか曲の流れをうまくつける意味でもメトロノームで最初のテンポを練習すれば、前に言ったことが意識的にできる様になると思います。偶然そうなっちゃったのはドラムの場合いけなと思います。

ドラムをやっている一番楽しいと思うときは?

ドラム練習の時、マイクを通してレコーディングの出来上がった音の様に、カセットに取って、それをきいている時たまに自分で興奮する時があり、「ワー自分でもこういう事が出来るんだなあ」という感じで、それでもまた家に帰って何度も繰返し聞いているときが楽しいです。それでカセットコーダーだけでいい時、当然バランスが悪く、スネアとか音の高いものはよくとれるのですが、の音などがきこえないとき実際「生音」というのはこんなひどいものなのかと、その事を意識して次回に力のバランスがうまくとれて、自分の弱点をみつけ、その課題を補ってうまくいった時が一番うれしい。(雑談その1……でも一番楽しい事は、プレミアムドラムを持っている優越感だな。)

音色について一番気に入っているところは?

音色については、自分のやりたいのは「生」の音なのでなるべくミュートはしない様にしています。ただレコーディングの時、B・Dなんかはノーミュートだとアタック音がきこえないので毛布をつめたります。あとはガムテープですが、よくハジの方に張っている人を見かけますが、あれはあまり意味がないと思います。僕の場合、2〜3cm四方に切ったB・Dの真中に張ります。その小さく切ったものを増やしていった方がアタック音は強くなるけれども余韻は消えます。要するに一番振動する所にミュートする訳ですからハジの方にいっぱい張ってあげればいつかはきいてくるでしょうが、真中の方がすくミュートされます。ただ初心者がよく真中に大きくXにして張っていますが、それは極端にミュートされています。スネアの場合は真中を少しはすく細くして張っています。裏側はミュートしません。T・T・F・Tは音的にドーンという感じが好きなので、ヘッドを少し厚めのものを張ってミュートはしません。

ドラム以外の趣味は?

ドラムを買ってアルバイトで皿洗いをやっていたのですが、その店がイタリア料理のお店で調理の方も自然に憶えてしまい、今たまにコックのまねごとをしています。(雑談その2……でも結局、アルバイトするのがとてもいやで、僕はこんなことをする為に生きているんじゃないみたいで僕にとっては楽しいドラムを持っているんだ、だからいやな事でもがまんして楽しい目的がある)続くのだと思います。また逆に、ドラムの方で行き詰るとまた3〜4日バイトで全然ドラムから離れていると、こんないやなバイトをしている位ならやっぱりドラムを打たれていた方がいいと精神的に切り換えがうまくいったみたいです。

これからドラマーになる人に助言を。

人に教わって必ずうまくなるということはないと思います。今自分がやりたいなと思っている時にやるのが一番であって、熱中した気分の方に先生等に教わりに行くのは正解だと思ふ、そういう時の方がいっぱい憶えられると思います。いやな時にがまんして練習するのは何も得るものがない様に思ふ。しかし、燃えた時は1週間に1回しか練習しなかった人が毎日1時間ずつでもどんとやれば良いと思ふし、たとえ短い時間でも内容と上達か素晴らしいと思ふ。でも、人によって10時間で解る人もいれば20時間で解る人もいますが、僕は20時間で解った人の方が深く解っているのは絶対だと思ふ。それをあとと体の中にしみこませる様な練習をする事でしょう。そして、時間的なもの、テクニック的なことばか、自分追い求めると「音苦」になってしまうので「音楽」をやる上でも、自分のサウンドを自分なりにつかんでいく事が大切だと思ふ。

★楽器の選び方について 例えはCymを買って行く時の音をきいてもその良し悪しはほとんど解らないと思ふ。「これはジャンルだから欲しい」という様に、いい音がすると思つて選んでいいと思ふ。使い込んでいくうちにその楽器に耳が慣れて、他の楽器と比べた時に、初めてその楽器の評価が決まるのではないかと思ふ。ドラムの場合特に、レコードやステージでも電氣的に音を変えていますので、初めて買う人は特に「生」の音を基準にして(お金とも相談して)選ぶことが大切だと思ふ。又ドラムは、い

ものは確かに価格も高いが絶対がいいんだと思つた方が正解だと思ふ。何故なら、高級品には数多くの可能性があるからです。自分の好きな音を無理して出すのではなく余裕をもって出せるという事です。例えばよく鳴るドラムにミュートして使う感じですが、そしてその可能性を自分でさがしてみるという楽しみもあります。ただ高級品をすぐ使ったからすぐいい音が出来るという訳でもありません。しかし、いいものがない音なら、あれが欲しいという目標だけは持った方がいいと思ふ。自分の好きなタイプの音楽によっても選び方は違って来ると思ふますが、自分の思っている最大級の可能性を持ったドラムを選ぶ様にしてみたいかがでしょうか。いいものを持つと妥協してもつとでは最終的満足感がちがってくると思ふ。それはいい音を知らないでいる様なものだと思ふ。

★音楽面からは、リズムキープだけに徹している人もいれば、あれだけのタムを揃えたのだから、「オカズ」をいっぱい入れてやるぞという事で奇抜なフレーズばかり考えている人もいますが、結局お客さんはドラムだけを聞きにきているのではないという気持ちで、唄っている人が唄いやすい様に、ギターが曲に乗れる為のドラミングだったり、曲に合ったオカズやリズムキープを考えて(確かにお客さんをびっくりさせる為のドラミングもありますが……)演奏する様に注意して下さい。自分が今一杯やれる事を無理して全てやってしまうと、あなたのパターンはそれしかないと思つてしまいます。それと、その曲に合ったオカズというのは何パターンもある訳ではないし、この曲にはこれしかないというオカズを見つけたら、それでやった方がいいと思ふ。それで10年たつてそのオカズが古くなって、もっと音楽的にも感性が良くなってそのパターンを変えらるなら良いと思ふますが、毎回ちがう事をやったり、オカズを長くやったりする位だったら、ドラムソロでカッコよくやった方がいいと思ふ。そして「あのドラムたいした事やらないな」と思わせておいてビシッと決めた方が、お客さんをびっくりさせるのが音楽をやる上でよほど効果的だと思ふ。自分の場になったときに自分を思いっきり表現した方がいいと思ふ。それから今の若い人はバンドを作ってやっていたりみたいですが、だいたい選曲する場合、ギターとかボーカルの人が主導権を握っていてドラムはしづうがなくやっている時の方が多いのではないのでしょうか。ただドラマーの技術にうまくあてていない場合、難しい曲を減茶減茶にやられて、でたために曲を憶えるよりも、一人でも一歩づつ着実にやる方を勧めたいと思ふ。バンドの中でコピーをする場合、そういう事を考えて確実にわかるものから始め、すこしテクニックがついてきたら、今度は難しい曲をいっぱい聞いていく様にすると良いと思ふ。初めから難しい曲だとどうして自己流になりやすく、体に変な力が入りゆるりしたフレーズが打たけなくなったり、一定のリズムをTimeで打たけなくなりがちです。何を打たなくてもTempoが狂わなくなつてからフレーズの勉強をしていくのも遅くはないと思ふ。そして自分の音というものをみつめていくのですが、自分の音というのはやっていたら絶対解るものだと思ふ。それはある日突然解るのではなく、慣れてそういうものになってしまうもの様に思ふ。それを見つけたらまで色々試行錯誤するものいでしょうが、自分の音をみついたら自分の音を確認して、今度は自分の音を他の人にマネさせるつもりでやった方がいいでしょう。結局、その音を聞いて「アイツはみないか」と思われるのが一番ではないかと思ふし、写真と名前をみて「アーンこいつか」じゃなく、音で解ってもらえる方がプレイヤーとしてうれしい事じゃないかと思ふ。そしてドラムの全てを吸収しようと思つてもそれは絶対無理だから、自分があるパターンができたら、そのパターンを磨いていった方がBestだと私は思ふ。例えはコーギー・パウエルにサンバをやれといつてもたぶん無理でしょう。でもあの世界であの音を打たせたら右にでる者はない様に、何々風によつてくれとよく聞きますが、何々風によつてくれればそのものずばりその人を連れてきた方が早いと思ふのです。自分の個性あるドラミング……はしてない目標ですが私も一生懸命がんばろうと思ふ。

Premier "RESONATOR," MODEL

Color: ビージー・ゴールド	Cymbal
T.T: 8"×6" 10"×8" 12"×8" 13"×9" 14"×10" 15"×12"	A: 15" NEW BEAT B: 18" CRASH C: 20" CRASH D: 22" RIDE E: 20" CRASH RIDE F: 22" PANG
F.T: 16"×16" 18"×16"	
B.D: 24"×14" (×2)	
S.D: 14"×6" No.2003(メタル) 14"×8" No.2005(木) 一切削り目	

ダブルタムスタンド: No.318 フットペダル: No.252 (×2)
ハイハットスタンド: No.325 (トリーロック)
シンバルスタンド: No.324T(トリーロック)ブーム(×5)
スネアスタンド: No.323 (トリーロック)

E. Hatch<MARIMBA ENSEMBLE>

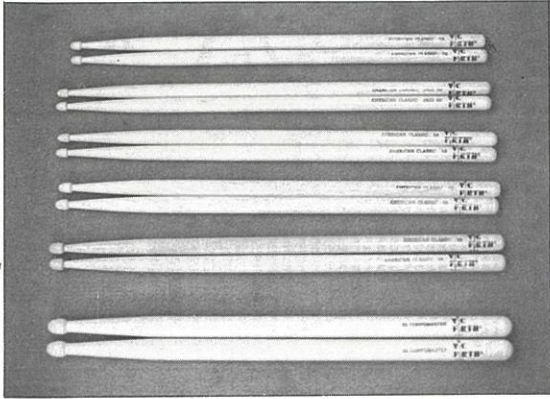
(グレード E-易しい M-普通 D-難かしい)

(★は在庫有)

カタログ No.	曲 名	グ レ ード	価 格	在 庫	カタログ No.	曲 名	グ レ ード	価 格	在 庫
	[DUET]				HE-18	Overture Miniature	M		
HD-1	A Media Luz	M	300	*	19	Dance of the Candy Fairy	M-D	1,090	*
2	Dark Eyes	M-E	300		20	Waltz of the flowers	D-D	2,970	*
3	Dlink To Me Only with Thine Eyes	M	400	*	21	At an old trysting Place	M-E	990	*
4	Easter Music	M	405		22	Olvera Street L.A.		11,880	*
5	Invention in Cminor	D	1,890		23	Three Concert Pieces	MD	8,100	*
6	La Cumparsit	M	300		HS-24	Tales of the Vienna Woods	M-E	2,080	*
7	Lullaby	M	1,080	*	25	Hora Staccato	M-D	1,490	*
8	Menuet 1 and 2	M	540	*	26	Air for G string	M	1,350	*
9	MMarch of the Toys	M-D	945		27	The Magic Flute (6players)	M-D	2,430	*
10	Preludio I <AVE MARIA>	M	600	*	HS-28	Chihuahua Polka	M	2,835	
11	Prelude and Toccata	D	675		29	Christmas Medley	M-E	2,025	
12	Playera	D	1,620	*	30	Dance of the Flutes	M	1,215	
13	Sonata No.1	M	4,050	*	31	Espaná Rhapsody	M-D	4,320	*
14	Short Preludes and Fugues	M-D	810	*	32	Fugue in Cminor	M	1,490	*
15	Spiritual Medley	M-D	810	*	33	Intermezzo	M	1,440	*
16	Spinning Song	D	945	*	34	La Cumparsita	M	1,190	*
17	THE BAT	M-E	400	*	35	Orpheus	M-D	2,680	*
	[3players]				36	Parade of the Wooden Soldiers	M-E	1,760	*
HE-1	Flight of Three Bumble Bees	D	2,430	*	37	Sabre Dance	M-D	2,295	
2	The Minute Waltz	M-D	945		38	Sheherazade	M-D	2,300	*
3	Invention in Cminor	D	1,890		39	The Everglades	D	5,130	*
	[4players]				40	The Marriage of Figaro	M-D	4,590	
HE-4	Dance Macabre	M-D	3,650	*	41	The Stars and Stripes Forerer	M	2,030	*
5	Russian Dance-Trepak	M	1,620		42	Toccata and Fugue in D-Minor	M-D	4,050	
6	CarlsBad	D	9,450		43	William Tell Overture	M-D	4,860	*
7	Three Concert Pieces	M-D	4,460	*	44	SONATA No.1	M	2,025	*
8	Pliatan	D	2,970	*	45	Hejre Kati (7players)	M-D	2,480	*
9	Ritual Five Dance	M-D	1,490	*	HS-46	Ave Maria	M	1,350	
10	Zigueneweisen	M-D	2,565		47	Espaná Rhapsody	M-D	4,320	*
11	Brandenburg Concerto No.5	M-D	2,700		48	King Cotton	M	2,835	
12	Prelude and Fugue in E Minor	M	1,080	*	HE-49	Symphony No.8	M-D	4,590	
13	La Golondrina	E	990		50	The Thunderer	M-E	2,025	*
	[5players]				51	The Bugler Turns Tympanist (8~9players)	M	3,300	*
HE-14	Jesu Joy of mans desiring	M	8 810	*	HE-52	The Band Played On	E	1,630	*
15	La Sowella	M	1,755	*	53	The Stremliner	M	2,295	
16	Chihvahua Polka	M	2,080	*					
17	Chimes of Spring	M-E	1,490	*					

特 価 堀 出 し 品				Ⓐ新品荷すれ品	Ⓑ新品はんぱ品	Ⓒ新品旧モデル	Ⓓ中古品etc.
品 名	メーカー	品 番	規 格				特別価格
マーチングトムトリオ	ラデック	675	Ⓐ 12" 14" 16" サウンドプロテクタ付ブルービスタ				199,000
シ ロ ホ ン	マッサー	51	Ⓓ F~C 3/8OCt ケロン音板のみ新品				280,000
テ ィ ン パ ニ	ラデック	1879	Ⓑ プロフェッショナルモデル 23" F.G				220,000
	"	1857	Ⓑ マシンモデル 20" アルミ胴サテン仕上				146,000
	"	891	Ⓐ スタンダードモデル 26" 29" 銅製2点セット				615,000
	"	1878	Ⓑ プロフェッショナルモデル 32" F.G				245,000
	プレミヤ	810	Ⓒ 25" 28" F.G 2点セット微調整リング付				550,000
ド ラ ム セ ッ ト	グレッチ		Ⓓ 20" 12" 14" 16" カラースノーホワイト				150,000
	バー		Ⓓ 22" 10" 12" 13" " "				120,000
ス ネ ヤ ド ラ ム	スリランダ		Ⓓ 14×5 メタル				28,000
	デテック	401 Kp	Ⓒ 14×5 クリスタル胴 10本ボード				37,000
	"	403 Kp	Ⓒ 14×6 1/2 "				39,000
コ ン ガ	ゴンポップス	ITL4125	Ⓐ 12 1/4 ラーजीータンバ				65,000
テ ィ ン パ レ ス	タ マ		Ⓐ 13吋、14吋 スタンド付 ウォルナット仕上				45,000

入荷案内



★Vic-Firthスティック Newモデル入荷!

この度、ビックファーススティックに“アメリカン・クラシック”モデルが登場しました。曲がりがなくバランスも大変良いスティックです。ぜひお手にとってお確かめ下さい。

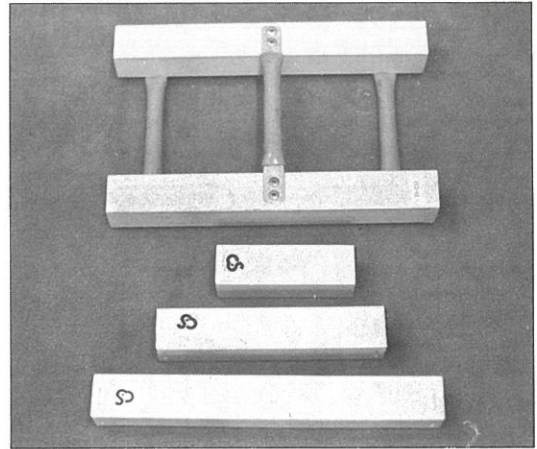
(写真上より)

7A 8D 5A 5B 2B 3S
各1Pr ¥2,000

★キャロル・サウンド(C・S)より、 “ディスコシェーカー新登場!”

2連から9cmのSMALLまで4種類、ラテンナンバーには欠かせないものです。音のキレは抜群!

SMALL ¥ 3,300
MEDIUM ¥ 3,900
LARGE ¥ 5,200
DOUBLE DELUXE ¥ 10,400



謹賀新年

本年も こおろぎ社のマリンバ、シロホンを
ご愛用くださいますようお願い申し上げます

株式会社 こおろぎ社

〒916 福井県鯖江市五郎丸町
Tel. 0778-51-0849

東京・こおろぎ社

〒160 東京都新宿区西新宿7-11-15
ミヤコビル6F Tel. 03-363-6425

——ホンジュラス産ローズウッド、オンパレード——

独自の原木からの一貫生産システム採用による高品質の音板と、
スーパー・コスト・パフォーマンスが欧米でも大評判。

●豊富な機種からお選び下さい。

■コンサート グランド ・マリンバ

No.1500A ¥980,000
(F21~F81) 免 ¥909,000
(5オクターブ)
低音域=ダブルスクエアパイプ
255(間口)×98(奥行)×86(高さ)cm

■コンサート グランド マリンバ

No.1500 ¥880,000
(F21~C76) 免 ¥816,000
(4½オクターブ)
低音域=ダブルスクエアパイプ
290(間口)×98(奥行)×86(高さ)cm

■コンサート マリンバ

No.750
(C28~F81)
(4½オクターブ)
¥550,000 免 ¥510,000
220(間口)×90(奥行)×85(高さ)cm

■コンサート マリンバ

No.700 ¥440,000
(C28~C76)
(4オクターブ) 免 ¥408,000
185(間口)×90(奥行)×85(高さ)cm

■バス マリンバ

UM-1000 ¥320,000
(F21~C40)
(1½オクターブ) 免 ¥297,000
低音域=ダブルスクエアパイプ
103(間口)×98(奥行)×86(高さ)cm

■コンサート シロホン

UX-3000 ¥250,000
(F45~C88)
(3½オクターブ) 免 ¥232,100
125(間口)×73(奥行)×80(高さ)cm

——近日発売——

■バス マリンバ

UM-2000
(C16~C40, 2オクターブ)
低音域=ダブルスクエアパイプ

■バス マリンバ UM-X

Bass up your Marimbo
お望みの音域のバスを……

■コンサート シロホン

UX-555
(F45~C88, 3½オクターブ)

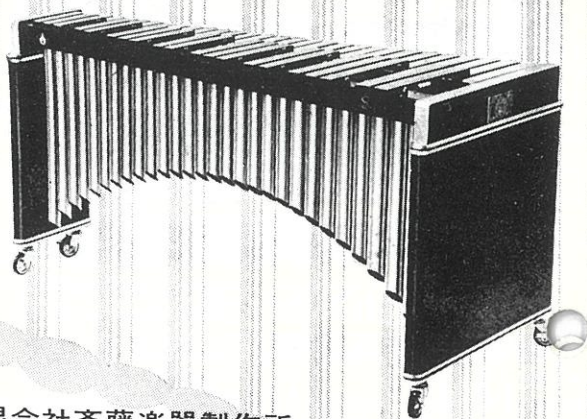
ワイドパー

■コンサート マリンバ

No.70E (C28~C76, 4オクターブ)
185(間口)×90(奥行)×85(高さ)cm

教育に プロに多くの人に愛用されている
サイトウのマリンバ *
MS-75.

サイトウ木琴・鉄琴
 ビブラホーン
 その他リズム楽器



Saito

有限会社斉藤楽器製作所

東京都町田市森野1-35-4 TEL. 22-3348

根岸工場 町田市根岸622 TEL. 91-1455

(カタログ進呈)

一度使ってみた。
 二度目から手離せなくなった。 ポインタ村上(フリー)

- ロックからジャズ、フュージョンと、近年いろんな分野に支持されているゴング。張りのある音色が、現代のクロスオーバーしたサウンドにマッチして、独特の雰囲気を作り出します。
- 厳選された材質と長年の研究開発から生まれたゴングの一級品です。キラリ、個性が光る宝来ゴング。

**HORAI
 GONGS**



大宝ゴング	
G-22 (22")	¥ 46,000 (税) ¥ 40,000
G-24 (24")	¥ 52,900 (税) ¥ 46,000
G-26 (26")	¥ 64,400 (税) ¥ 56,000
G-28 (28")	¥ 80,500 (税) ¥ 70,000
G-30 (30")	¥ 103,500 (税) ¥ 90,000
G-32 (32")	¥ 135,700 (税) ¥ 118,000
G-36 (36")	¥ 193,200 (税) ¥ 168,000
G-40 (40")	¥ 253,000 (税) ¥ 220,000
スタンド	
GS-24 (22", 24"用)	¥ 20,000
GS-30 (26", 28", 30"用)	¥ 23,000
GS-32 (32"用) キャスター付	¥ 30,000
GS-40 (36", 40"用)	¥ 35,000

取扱商品

●宝来・大宝ゴング ●シンバル ●ラテンパーカッション ●管弦打楽器用各種スタンド

カタログご希望の方は ¥200切手同封の上お申込み下さい。

Aida

株式会社 アイダ楽器

〒131 東京都墨田区押上2-42-1

☎03(614)4115

全国有名楽器店でお求め下さい。(万一品切れの際は直接当社まで)

感動の余韻を残す、 ローズウツの深く豊かな響き。

ヤマハコンサートマリimba



胸にわきあがる楽想、打ちおろすマレット、しっかり受けとめて響くマリimba。深く豊かなその響きのなかに、生き生きとした音の表情があります。奏者の微妙な心の動きを、そのまま表現してくれるヤマハコンサートマリimba。音板には、理想の素材、ホンジュラス産ローズウツを採用。1本の原木から、厳選されるわずかな音板は、1本1本入念に仕上げられます。共鳴パイプ・フレームにも、最新の設計技術が存分にそそぎこまれています。楽器づくり90年の歴史をもつヤマハの耳と腕が、精魂こめて創りあげた名品。まさにコンサートマリimbaの最高峰と呼ぶにふさわしい風格をただよわせています。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社

Japan Percussion Center

<YM-5000> ●音域=4 $\frac{1}{2}$ oct. ●音板材=ホンジュラス産ローズウツ、オープンパワーフィニッシュ ●音板幅/厚さ=61~42mm/24~20mm ●共鳴パイプ=アルミ合金管フラッシュゴールド・アルマイト処理/パイプ底スライド装置付き ●枠=アイボリー塗装・ハイポリシング ●脚=ソノケリン・ムク材及び化粧板・ポリウレタン塗装/75φゴム受けキャスター付き ●寸法(間口×奥行×高さ)cm=224×105×88 ●重量=105kg ●標準価格=¥1,450,000
●YM-4500(4oct.)=¥720,000 ●YM-4000(4oct.)=¥590,000
●YM-400C(4oct.)=¥430,000 ●YM-380(4oct.)=¥350,000

写真はYM-5000です。

＝ 共鳴板(会員の声) ＝

- 9月8日：今日は雨です、9月の雨ってセンチメンタル！ こういう日はJAZZ-VIBがいいですね。誰かがマーチングドラムを打たれています。無神経な奴だ！（しかし、むちゃくちゃ言ってるな俺も）世の中お天気ませ、どうせオイラは日雇いよ。といいつつもスポットライトに憧れる世紀のヘビィメタルドラマーBON君です。
- 10月30日：去年の今も東京に来ていました。そして同じように、NOTEに色々書いていました。あーあ明日はいよいよ全国大会。中学校生活最後の大会。頑張ろう。

出雲一中 Timp & S.D 富永真知子

● 11月25日：今日は、Vic-Firth のパチとマレットを買いにやってきました。(この後コマキでヤマハのパチを買うつもり)。さて、去る11月3日、上智大学文化祭(ソフィア祭)で、オーケストラの打楽器のメンバー3人を中心にして計6名で、打楽器アンサンブルをやったのであります。曲は、グッドマンのティピアナ、チャベスのトッカータ(1.3楽章のみ)、なんとかっていう人のプレリユード、そしてピックファースのアンコロ・イン・ジャズ。オーケストラでただTimpだけやっつてのうのうとぬるま湯につかっているのにあきってしまった連中が、いよいよ立ち上がったという訳です。楽器の数も少ないし、時間もなくなつた4曲しかできなかったのですが、それでもとにかく、第一歩でありまして、アームストロング船長ではないけれど、大きな一歩なのであります。ただ、

楽器が無いというのかんともしがたく、それでもあちこち走り回って、Timp×4、Vib、ベル、マリimba、DrumSet、S.D×4、トム、バストム、マーチングスネア、コンガ、ボンゴ、テンブルブロック、マラカス、クラベス、カウベル、合せCym、B.D、シロフォン、スタンドCym、でもこれが精いっぱい。オーケストラチャイム、ドラはどうしても見つけられず、トッカータの2楽章もできなく、クヤシイ！ でも今後も連中は連中なりにガンバルと言っているのによろしくお祈りします。

パーカッション・アンサンブル 皮鉦木(Hikoki)。

Kazuhiro-Kuwagata

Tadahiko-Mizukuki

Toru-Kikuchi

Takashi-Moriyama (賛出)

Etsuko-Tahara (賛出)

Hajime-Miura (賛出)

Sugure-Nishimura (スペシャルゲスト)

by Miura

- ?月?日：('82)3月28日(日)山口県下関西高のSpring Concert '82があります。(於、下関市民会館)

1. ステは、'バルトークのオケコン etc.
2. ステは・・・?
3. ステは、ポピュラー、歌謡曲、etc. アトラクションもあります。

本州のはしっこですが、よろしかったらドゾ。

東京在住 西高OB

◀ JPC だより ▶

● 11月2日、4日にボストン交響楽団 Vic-Firth氏を始め、打楽器者が来店され、各種マレットや東洋楽器に大変興味を持たれたようで、色々質問されお買い上げになりました。



写真は11/4に来店されたトムゴガー氏(左)、C・スミス氏(右)。

- 56年分会費(1,000円)未納の方は郵便振込みか、事務局まで御持参下さい。尚不明な方は事務局まで御連絡下さい。

郵便振込みの場合：

郵便局口座番号 東京9-153115

加入者名 (株)コマキ楽器

- JPC・コマキ楽器営業時間のお知らせ

㊦～㊨ 両店とも休業

㊩ コマキ楽器初売(12:00～18:00)

㊪～㊬ JPC コマキ楽器共(12:00～18:00)

㊭～ 両店とも平業営業致します。

(1月23日は休まず営業致します。どうぞ御来店下さい。)

- ㊦より恒例の決算前のバーゲンセールが始まります。毎年大変な混雑で御迷惑をおかけしますが、やはり安いという事は良い事なのでね。今年も安いものをどんと用意する積りですが、昨年以上にくじ引きもすごい景品を探しています。御期待下さい。
- 皆様の御意見、御希望をお待ちしています JPC事務局までお送り下さい。
- 日本の太鼓(その2)は、次号に掲載させて頂きます。

編集後記

つい最近寒くなったなと思つたらもうお正月。楽しい事も苦しい事も過ぎてしまえばもう想い出になって……(ちよつと感傷的になったりして)でも結局、コタツに入つてみかんを食べながら「紅白」をみて、「行く年・来る年」もみて除夜の鐘をきく。(やはり、これがなくては正月は来ない雰囲気)。そして時報……「新年明けまして、おめでとうございます」昭和57年の幕明け、全国三千人の会員の皆さん「ハッピー・ニュー・イヤー!!」さあて、今年一年どういう年になるのだろうか胸はずませながら、一年の計は元旦にありとはもうせ、今年こそは、今年こそはと思いつつ、まあ来年もあるさと途中でめげていきましたが、今年は何か一つ100%の達成をめざしがんばつてみましょう。JPCも昨年の色々な事を糧にし、また新しい気持ちで、皆様の御意見や御協力を得て、楽しく実のあるJPCにする様スタッフ一同がんばつてまいりますと思っております。さて、年賀状が何通くるか、楽しみにしながら初夢をみる事にしましょう。

昭和57年 元旦

(親)

昭和57年1月1日発行

発行所 J・P・C事務局

111〒 東京都台東区西浅草1-7-1

(武藤ビル2F)

電話03-845-3041(代)

郵便口座番号 東京9-153115

加入者名 (株)コマキ楽器